●ナラ枯れ木の処理　薪割り進む

ナラ枯れ木を草内倉庫に運び込んだのが１２月１６日。３日目の１８日に運び終え、大晦日に購入した薪割機の威力が発揮されたのが１月１６日でした。その後７日間で、主としてコナラ部分が終了しました。３１日には森島さんがコナラ部分の小物を全て割っていただき、残るのは超大物クヌギの難物です。

これは最初、山の斜面から切りだして農園で玉切りを行ったもので、持ち出すのが重たいので、手ごろの大きさに切れればいいとのことから長さが様々で、今回薪割機の稼働長さなどは全く計算していなかったのです。後の祭りになりますが、振り返ると適正な長さに玉切りをしておけば二度手間が省けたものをということになります。このクヌギは枯れ始めて数年経過しており、すっかり水分が乾燥していて、玉切りをするときチェーンソの刃がすぐ切れにくくなる本当に固くしまったものです。難物の長さ調節のために、もう一度切りなおすことは２度目のつらい仕事になります。里山の会の持ち物は鋸部分が短い 30 センチのチェーンソですから、２台のチェーンソを交互に目立てをしながら使わなくてはなりません。まさに二人かかりの作業となります。それに直径が 30 センチという太いものですから、なかなか手ごわいものです。ぜひとも皆さんに挑戦いただければ、ありがたいです。お越しいただける方は一声、事務所に声をかけてください。お待ちしています。

●夏原グラント　18 年度環境保全活動助成金申請を提出　50 万円）

1 月 31 日の事務局会議で、継続 2 年目の夏原グラント環境保全活動助成の申請について議論がされました。これまで夏原財団の環境保全活動助成金の申請を数回「川での魚とり活動」を中心に環境問題として申請を行ってきましたが、いずれも合格とならず、昨年やっと里山農園の環境整備として採用がされました。長年の苦労が実ったものです。夏原グラントでは一度採用決定がされると 3 年程度は優先的に継続助成としての優先資格が得られるのです。長年の苦労が評価され、やっと得られた夏原グラントの活動助成のチャンスを簡単に失っては、これまでの苦労が水泡に帰してしまいます。まして現地視察をいただき、講演会には審査委員の先生のご講演をいただき、少しお付き合いが始まった矢先にここで不十分なままで継続を打ち切ることは失うものが大き過ぎるとの意見もあって、積極的にチャレンジすることになり、継続申請を行うことになりました。

●5 回連続地域説明会『木津川はどんな川』のメーン解説者決まる

新提案が続々届く。写真による数年間の里山の会１０大ニュース　中聖牛の巨大な写真をメーン展示としては、いかがという積極的なご意見をいただいております。活動を始めて２０年で里山講演会と自然と環境講演会も合計４０回を超え、会誌「里山の自然」も４３号を発行し、週刊ユースは本号で７０５号を数えることになりました。今回展示発表すると予定しているのは、「山城の歴史と木津川」の全ページの展示をと考えています。加えて木津川の希少植物、絶滅寸前種を中心とした内容であります。当日の午後２時から約１時間の講演会解説会を予定しています。１２日の仁枝洋さんは、伏見納所にお住まいで巨椋池や淀伏見の水害問題などに大変詳しい方です。１８日の午後 2 時からは京都大学防災研究所の准教授竹門康弘先生です。先生は魚や生物に非常に詳しい先生で、竹蛇篭や聖牛の設置でご指導をいただいている先生です。２４日の須川恒先生は京都府のレッドデータブック鳥類部門に力を発揮され、広く東南アジア地域もエリアにされている先生です。３月３日は現在京都産業大学教授の鈴木康久先生で、本会初代会長の山本雅晃さんの後輩で山城地域の水問題を研究中です。最終回の意３月１８日は山城地域において広く研究されている方はほかにおられないという中津川敬朗先生です。このようにその道権威の先生に揃っていただきました。どのお話も聞き逃してはならない珠玉のお話をいただけると期待をしています。ご友人お友達にお誘い下さい、残念ながら会場が小規模なので３０人が最大の広さであります。先着順でのご入場となります。お断りの場合はご了解をお願いいたします。

●1 月 30 日の事務局会議　里山農園の運営について論議を展開

里山農園の運営を担ってこられたお二人のご意見は、昨年の夏の段階で夏野菜は植えつけないとの方針が確認されていました。そして最近農園には人が集まらないという状況がありました。こうした事態をもとに話しあうと、仲間に呼びかける時に「いつ何をどうするのか」という予定や計画が的確に伝えらえていないのが大きな原因と考えられる。みんなで予定や計画を作って、みんなで話し合って(情報の共有)前進するというシステムが整っていなく、農園に来てくれたら行う仕事はたくさんあるという荒っぽい(経験主義）取り組みで来ました。できるだけ多くの皆さんや会員さんに正確な情報を伝えるという点で、随分と弱かったのではないかという意見が出されました。こうした数多くの積極的なご意見をしっかりと受け止めて前を向く(改善)ことではないかと思います。これまでと同じ状態（課題を明らかにするだけで改善に着手しない）を繰り返しでいては困難を乗り越える打開策に効果は出てきません。27 日緊急の三役会議開催して検討したところ、人心一新で臨まなければという結論となりました。この提案と報告を行ったところ事務局会議では、実際に行動する人が集まるのかという質問が有りました。里山農園の運営が困難な事態に直面しているにもかかわらず、誰か助けの神が表れてくるだろうという他力本願的、消極的に受け止められてるようでした。とにかく高齢でもあり、体力的にこれ以上農園作業に取りくめない姿勢が浮き彫りになっていました。そうであっても次年度の一年は現状打開へ向かうことになります。ご協力をお願いいたします。

●　わかりやすい「山城の歴史と木津川」

（発行協力金：2000 円）「竹蛇篭の取組み記録集」（発行協力金：1500 円）「里山農園の自然」（発行協力金：2000 円）が完成しています。ご購入希望者はできるだけ早く里山の会事務所に FAX で申し込みをお願いします。(いずれもカラー印刷です。送料別はご負担ください)